

日本の文化と カルチャーショック

写真・マンシユル・アリフ
Mansyur Arif

私は一九九二年五月二十日に日本へ来ました。もう三年になります。日本に来る前、日本の生活や文化など少し勉強していましたが、はじめて日本に来たので、知識不足のためカルチャーショックを受けてしまいました。

現在私は、原爆放射能医学研究所分子細胞遺伝研究分野の大学院三年です。私は学会参加のためだけでなく、観光を目的として多くの都市を訪れました。そこで受けた印象を二、三挙げてみます。

I 日本人は勤勉家である

日本人はとても勤勉です。昼、夜となく働きどおしという印象があり、他のアジア人と違う点です。日本人は自分の仕事に誇りを持ち、自分の仕事に精通しています。

II 日本人は多様宗教

私は日本人の宗教観がどういうものか正確に説明できません。他の国と違って、一つの信仰を貫くわけではないからです。

私は初めて、日本人がクリスマスを祝うのを見てたいへん驚きました。その祝い方はクリスマスチャン以上でした。また、結婚式では西洋式を取り入れたものが流行で、お葬式は本来の宗教の形式に戻ります。新年のお祝いやその他の行事なども古来の形式に従います。これは、本来の宗教を守りながら、他の宗教の良い部分をうまく取り入れ、生活を楽しんでいるのだと思います。

III Culture degradation (日本という文化の消失)

インドネシアでは、教育推進のため日本の多くの映画を取り入れています。例えば「おしん」などほとんど有名です。しかし日本に来て、「おしん」のような光景を見つめることはできませんでした。それは映画だけのことだと認識しました。

ときどき私は思います。日本の文化はまったく違うものになるのではないかと。そして、日本という文化を知るためには、もう日本にくる必要がなくなるかもしれない。私はそうなるってほしくありません。



原医研バレーボール大会 '96 夏 (前列左)

プロフィール

- ◇一九八九年七月 ハサヌンディン大 卒業
- ◇一九九〇年二月 ハサヌンディン大 学附属病院勤務
- ◇一九九二年五月 広島大学原爆放射能医学研究所血液部門 研究生
- ◇一九九三年四月 広島大学大学院医学系研究科入学

